

令和元年度 自己評価書

学校名	和歌山市立西脇中学校学校
校長氏名	西野 孝
作成日	令和2年1月30日

1 教育目標

【学校教育目標】 【めざす児童(生徒)像】	「共に豊かに生きる」 ・基本的な学力と生活習慣を身につけた生徒 ・強い身体とたくましい心をもつ子供	・誠実で、思いやりがあり、個性豊かな生徒 ・助けあい、励まし合い、共に高めあっていく生徒
--------------------------	---	---

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査で基本問題の正答数が前年度を上回る ・授業力向上のため各学年2回ずつ研究授業を行う	・「学校が楽しい」(生徒80%) ・「自分には良いところがある」(生徒肯定的70%) ・いじめの早期発見早期解消に取り組む(解消率100%)	・朝ごはんを食べた(生徒90%) ・積極的に運動を行うよう計画し、実践した(教師90%)	・学校の様子がよく伝わった(保護者90%) ・中学校区で接続、連携した取組を具体的に実践できた(教師90%)
重点目標	◎基礎・基本の確かな定着 ◎「学び合いの授業」の推進 ◎家庭学習の定着 ◎読書活動の推進	◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見 ◎仲間づくりの実施	◎体力向上の推進 ◎運動部の活性化 ◎基本的生活習慣の確立	◎家庭・地域との連携充実 ◎小中の接続、中学校区における学校間連携の推進 ◎地域の資源活用の推進
取組の状況【D】	○「学び合いの授業」による授業改善で一人ひとりの学びを保証し、個に応じた学力の伸長を目指す。 ○「きのくに」学力定着フォローアップ事業を活用し、教員全体の授業力を向上させることで生徒の学びを支援する。 ○CULTEKを活用することで家庭学習をサポートし、基礎学力の定着を図る。 ○「朝の読書タイム」を充実させることで読書の楽しみに気付かせる。	○「道徳の教科書」希望へのかけはしを活用し、道徳科の授業を充実させる。 ○いじめアンケートを年間に複数回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ○情報モラルやネット社会に潜む危険性について、学ぶ機会をもつ。 ○「学び合いの授業」によるグループ学習の手法を生かし、学級活動、学校行事、生徒会活動などで誰にでも出番がある学校をめざす。	○「早寝、早起き、朝ごはん」を推奨する。 ○運動部への入部を推奨し、それぞれの目標に向かって自主的に体力の向上を目指すように指導する。 ○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、危機回避能力を育成する。 ○学校行事や学年行事で運動する機会をつくる。	○ぐるりんメール、ホームページ、各種通信を通して学校の予定や学校生活の様子を積極的に発信する。 ○小中の接続、中学校区での小中、中の連携を推進・充実する。 ○図書ボランティア、クラブ講師等の人材や、地域の自然・文化を積極的に活用する。 ○磯の浦の海岸清掃活動、吹奏楽部や科学技術部、JRC部などが地域でボランティア活動を行う。
取組の成果と課題【C】	○1学期、2学期にそれぞれ2回「学び合いの授業」の研究授業と研究協議を持つことができた。 ○「きのくに」学力定着フォローアップ事業」でアドバイザーに17回来校して頂き、授業改善、学級作りについて指導して頂いた。 ○試験発表中の質問会に加え、夏休みの学習会や放課後の補習を行った。	○道徳の授業を計画的に行うことができた。 ○地域の幼稚園、小学校と連携して「人の心と体で遊ばない」というスローガンのもとポスターを作成して心を育てる取り組みを行った。 ○いじめアンケートとその後の教育相談によりいじめの早期発見早期解消に取り組めた。	○朝ご飯を食べない生徒約14%いることから、保護者への理解を促したい。 ○運動部に所属している生徒が半数を超えている。市駅伝は男女とも優勝。 ○1年の校外学習で加太駅から深山まで歩く行事を行った。 ○河西公園でマラソン大会を実施。 ○自転車の事故防止に向けて警察を招いての交通安全教室を3月に実施する。	○ぐるりんメールでの週行事の発信は1月から取りやめ、重要なお知らせのみ発信するようになった。 ○図書ボランティアやマラソン大会の補助など地域人材の協力を得られた。 ○磯の浦海岸の清掃活動、吹奏楽部、科学技術部、美術部、JRC部が両小学校の祭りや土曜教室での活動、高齢者施設の訪問、神社への絵馬奉納など多くの活動をした。
改善方法【A】	○「学び合いの授業」研究を継続し、特別支援教育の視点を取り入れることで、学力の向上を図る。 ○「朝の読書」「テスト前補習」「夏休みの学習会」「放課後学習」の充実をはかる。 ○「きのくに」学力定着フォローアップ事業」の活用で若手教員の授業力向上をはかる。	○「挨拶・掃除・ベル着」の指導を継続する。 ○教科「道徳」の授業を充実させる。 ○「学び合いの授業」で「学年・学級づくり」を意識したよりよい学習集団づくりを目指す。 ○「人の心と体で遊ばない」というスローガンのもと心を育てる取り組みを幼小と連携して行う。	○「早寝、早起き、朝ごはん」を保護所の協力を得て推奨する。 ○運動部への入部を推奨し、それぞれの目標に向かって楽しく自主的に体力の向上を目指す。 ○避難訓練や交通安全教室を計画的に行い、命を守る意識を持たす。 ○学校行事や学年行事で運動する機会をつくる。	○ぐるりんメールで毎週予定を送るかは保護者の意見を聞いて判断する。HPIは必要最小限で更新する。 ○コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を、共育コミュニティの活動と関連させながら、従来の行事に取り組む。 ○行事への保護者の参加を促す。 ○生徒が地域に出ていく機会を継続して行う。

3 その他の課題

「学び合いの授業」に取り組んで5年になるが、ようやく学力向上の成果が表れてきた。「学びの共同体」の形にこだわらず、「主体的、対話的で深い学び」のためには教師がどのような授業力(技術)を身につける必要があるのかの原点に立ち返る必要があると考える。先生も生徒も楽しいと感じる授業を作ること、勉強は楽しいものだと思わせてほしい。

生徒が主人公の学級を作してほしい。先生の指示がなければ何もできない集団では生徒の主体性が育たない。学級でリーダーを育て、生徒が自ら学級の問題に取り組む、解決していきような集団を作してほしい。学級作りこそが心の育成や学力の向上の礎であると考えられる。学級を作る力をつけるための研修の機会を持ちたい。

発達障害のある生徒への理解がなかなか進まない。誰にでもわかりやすいユニバーサルデザインの考えと、個々の障害に対する合理的配慮を誰一人恥をかかせない、辛い思いをさせないという思いで教育に取り組んでほしい。